

【春日保育園】 ●2024.11.11 ふりかえり(エコエデュスタッフ／遠藤先生／園長先生、副園長先生)

スタッフ①:今日はありがとうございました。

一同:ありがとうございました。

スタッフ①:お時間いただきありがとうございます。

今日は畑を使いまして、そこにあるものを使って工夫して遊び込んでいくというところまで、これから保育の活動の中で取り入れていただけたら嬉しいなと思って、そんな願いを込めてやらせていただきました。

今日は、穴が開いてる葉っぱがたくさんありました。その穴を使った遊びをきっかけにしながら、たとえば、他の穴にも気が付いたり、それをきっかけにして、葉っぱや茎に「こんな葉っぱもあったんだ」「こんな植物入ってたんだ」というところに気が付きながら遊びが展開し、それでも生き物なんかもいたら、今まで目に留まらなかったそんな部分にも関心を寄せる姿が見られたらいいなと思っていました。子どもたちが自分たち自身で遊び込んでいく姿がすごく見られたので、私の方で何かしなくても、見守っていたらいいという時間も多くて、春日保育園さんの普段の保育の豊かさみたいなものを感じた時間でした。

今からそれぞれの先生方には、普段の遊びとは違った姿について、改善点なども含めて教えていただけたらと思います。

スタッフ②:

はい。はと組さんの子どもたちが、みんな素直にすって繋がっていくのを目の当たりにしました。あそこの小道でもそうなんですけど、クモだったり葉っぱだったり。今日は雨上がりだったので、また、雨上がりの楽しさもあって、すーっと繋がっているのがすごいなと思いました。体を動かしたい子は山に登るというところが。あとは、いい場所だなとすごく感じてました。子どもと畑の場所というところから生まれるものが、どんどんどんどん出てくるなと思って見てました。本当に子どもの発想で遊びが展開されていくので、すごく自由に遊べていいですね。私は今日、子どもたちに初めて会ったので、どんな子かがわからないまま入ったんですけども。

スタッフ①:この間ちょっとだけね。

スタッフ②:

そうです。挨拶だけなんですけどちょっとさせていただいて。

でも子どもたちが飛行機とか自分のものに向くので、その個性が見えてくるような気がしました。私はテーブルで石と遊んで、乗り物や食べ物、自分のポケットなどの場所にいたんですが、そこで個性が見えてくるのがすごく楽しかったです。どんぐりの穴を見つけた子が「穴があるよ」と言って、それで、「剥いてみたい。やって」と言われたんですが、「でも、できるからやってみて」と言ったら、自分で剥がしていきました。しゅるしゅると動くものが見えて、「なにになに？」とみんなが来ました。周りにいた人はそんなに虫好きじゃないのかなというお子さんもいたんですけど、1匹出てきたことで、その子が誰なのか、どこに行こうとしているのかとか。小さいから「僕たちは守らなきゃいけないんじゃないか」とか、その1匹の虫ですごくいろんな感情や言葉が出てきました。「こうしたらいいんじゃないか」という提案が出てくるところがすごく面白かったです。いっぱいあるんですけど、今日はそれが一番印象に残りました。

スタッフ①:

ありがとうございます。副園長先生にはその場でお話しましたが、私が印象に残ったのは、カタツムリに一生懸命水を飲まそうとしているのを「どうしたら飲むかね」なんて言って見ていました。「みんなはどうやって水飲むの？」と言ったら、「こうやって」と言うから、「そうなんだ、カタツムリはじゃあどうやって飲むのかな？」と言ったら、棒を濡らして、棒を口らしきところに。そしたら、きゅっと引っ込んで、しばらく見ていたらニューと出てきて、またつんつん、ニューというのを何回も何回も楽しんでいました。結局、つつくと引っ込んでしまうことに気が付いて、床をちょっと濡らして、どこにお水をというようなことだったり。そこに副園長先生が濡れた葉っぱを置いたら、カタツムリがそこに上っていきました。「じゃあ、葉っぱがいいんじゃないか」と思ったんでしょうね。また違う濡れた葉っぱをその上に置いたりして、ちょっとしたきっかけからいろんな気づきが広がって行って、言葉も出てきました。そのところの前では、シートに水溜まりがあって、そこに葉っぱを投げて釣りをしました。そこからポットみたいところに「いや、ここは葉っぱのおうちで、こっちはどんぐりのお家だから」とか言って、どんどん遊びが、子どもたちの良いこだわりというものがすごく見えてきた時間でしたね。

2歳児さんは言葉が出始めて豊かになってくるので、さらに面白さがやり取りになって…。じゃあ、園長先生と副園長先生の方から、普段の様子と今日の様子と教えてください。

園長先生:

今もお話が出ましたが、あそこの畑はよく行くんですが、あそこが目的地になってしまうものだから、なるべく早く行こうとするじゃないですか。たとえば今日も、細いところに入ると、おっしゃったように、最初に誰かがクモを見つけたんですかね。僕はそこにいなかったからわからないんですが、クモの巣が張って、雨が降った後だからキラキラして綺麗なところがあるんですよね。クモが実際に活動してるわけじゃないですか。ああいうものがふと目に

留まって、みんなで見るという場面があんまりなかったもんですから、**ちょっとした声かけで子どもの態度や行動がすごく変わる**んだなということを改めて感じました。葉っぱの上に水玉がいっぱい出て、それもキラキラしてすごい綺麗なんですよね。ああいうところにも目が行く子がいて、**ちょっとした環境の変化で、いろんなことに子どもたちが気づいていく姿はいいな**と思いました。

ものの本を読むと、我々にはそんなことが普通になってしまうんですが、子どもたちにはそういうことがすべて初めてで、そういう**初めてのことの積み重ねを経験として、自分の知恵にしてい**くということだ**と思います**。いろんな気づきを与えてあげることが本当に必要で、ああいう環境がそういうものを与えるいい場であると改めて思いました。

あとは、僕自身は子どもたちにあんまり関わらないようにしているんですよね。何かちょっとした声かけだとか、さっきも話がありました、葉っぱをちょっと出してあげるとか、きっかけを作ってあげるのは保育としていいのかなと思うんですけど、あまり関わりすぎるとかえって子どもたちの発想を妨げるところもあると思います。ですから、なるべくかかわらずに、**子どもたちの自由な時間を大事にしてあげたい**です。たまに「保育室入っても、園長先生は腕組んで見てるだけだ」などと言われる時もありますが、私としてはそういう意図を持ってやっています。今日もなるべく見守るようにしました。やっぱりスタッフの方がいらっしゃるんで、いつもよりハイテンションの子もいたと思いますが、いつも通り元気な姿が見れたかなと思いました。

スタッフ①:

ありがとうございます。路地のところは本当にいいところです。今日も、下見をしながら楽しませてもらって。みんな気がついて楽しめたらいいねと話していました。四季の変化もたぶんあの路地だけで感じられます。去年は10月、ちょうど1か月ぐらい季節が早かったんですけど、落ち葉が色づいた葉っぱがいっぱい落ちていたりとか、年によってもたぶん自然の状態は違うと思いますが、あそこはすごくいいですね。

園長先生:

だから、保育士的に言うと、それに自分自身が気が付いて、子どもたちにヒントを伝えてあげると**いうパターンがいいのかな**と思います。なかなか難しいですが。

スタッフ①:

そうですね。保育士さん自身があそこの面白さに気づいて、そういう気持ちを持ってれば、きっとそれが自然と子どもたちに伝わるのかなという気がします。ありがとうございます。お願いします。

副園長先生:

ありがとうございます。今の子どもたちの実態ですけど、とても人懐っこい子たちです。たとえば、ここに見学の人に来て、私が話をしていた時にここを通るじゃないですか。みんなが声をかけてくれます。本当に人が大好きです。お散歩に行く時も近所の人たちに声をかけてもらったり、そういう意味ではとても素直でよく遊ぶ子たちだなと思います。今日の主担当は若手で3年目の保育士なんですが、0から持ち上がっているんですね。うちは担当制保育をやっていて、いわゆる愛着形成がすごく大事だから、自分の担当の子がいて、それぞれしっかり園の中での安心安全の基地、心の基地を作るという意味でやっています。実はもう1人ベテラン保育士がいるんですけど、今日はお休みです。今日も主担当が本当に頑張っているなと思います。今年のクラスは今日の若手が率いているんですね。だから、子どもたちも安心してのびのび遊んでいるなと感じて見ていました。

私は途中からの参加でしたが、私が行ったらみんなでツルで遊んでいました。そのツルの先でホースごっこや引っ張りっこをやっていたり、あと、ブルーシートの水たまりで魚釣りをしていたじゃないですか。いろいろ葉っぱやどんぐりを入れたり、ああいうのは面白いです。そのうちにビニール袋にいろいろなものを入れてモミモミしたり、ミックスジュースが始まったりとか、そういう子どもの遊びの展開というか発見、気づきというか、そういうところにやっぱり。私も子どもが言うことに対して割とオウム返式的に答えを返しているんですが、今日のスタッフの方のカタツムリの話、「みんなはどうやって水を飲む？」と言いましたよね？

スタッフ①:はい、そうです。

副園長先生:

そういう言葉がけができるように私たちもしたいなっていうのは思いました。大事ですよ、やっぱり導く言葉です。それを最近、私たちもすごく言い出しました。私は5年目なんですけど、私が来る前はあんまり畑に行っていなかったと保育士たち言うんですね。こここのところすごく行くようになって、よく遊んでいます。やっぱり私たち職員も自然の中で遊ぶことの面白さに気づいていかなければいけないし、いろんな発見を私たち大人もできるようにしたいなとも思います。

すごく疑問に思ってることが1つあって。それはどんぐり拾いです。園の行事でどんぐり拾いがあり、幼児クラスは護国神社に行くんです。今のはと組さんは清水山に登るんですよ。1歳児クラスのはひる組が畑、0歳児が園庭です。要は、事前に保育士たちが一生懸命どんぐりをどっさり拾ってくるんですよ。それを朝一番で護国神社に行ったら撒いたり、どんぐりの木がないのに畑にばら撒いたり。

スタッフ①:あー...なるほど。

副園長先生:

山にばら撒き、園庭には松ぼっくりをばら撒くというようなことは、要はお膳立てをしてあげて、子どもたちがどんぐりを拾う、遊ぶという目的です。そこからの発展としては、たとえば、今日、畑にあったさつまいものツルをリースにして、そこにどんぐり拾いで拾ってきたどんぐりを飾りにつけたり、松ぼっくりを付けたりと製作物のに繋げていきますが、そもそも撒くということに、なんとなく私はどうなんだろうと感じています。今日のプログラムと直接関係ないのかもしれないけど、自然の中で自然物をと考えると…。

スタッフ①:

そうです。すごく関係あるなと思いました。**そこにあるもので遊ぶ**という、その力はいろんなものをものすごく引き出すと思っているので、撒くのはどうかと思います。リースにつけるのともしかしたらどんぐりみたいに長持ちしないかもしれないけれど、あそこには今日も、葉っぱとか花とか茎や猫じゃらしのようにいろんな面白いものがあつたじゃないですか。どんぐりだけじゃないそういう小さな面白い発見に目を向けることをやっていくと、わざわざ撒かなくても春のリースや夏のリースなどいろんな素敵な季節のリースができると思っています…。

副園長先生:

そうなんですよ。だから、職員が、子どもが自ら見つけられるものを大切にするというよりは、「さあ、みんなで拾って」みたいな、そういう「私たちは子どもたちのためにやってあげている」感がすごく出ている感じがします。たぶん昔からずっとそうなんですけど、その発想の転換をしなくてはいけないなと思うんですが、そこをどういうふうにしていったらいいのかなというところは私の課題でもあります。それを、この自然プログラムを通して、職員にも気づいてほしいなというのもあるんですが、どうしていったら…。

スタッフ②:

私たちの自然遊びのプログラムと、「どんぐりは自然だから」ということは、別個のような気がします。どんぐりはクラフトや創作などの中の1つなのかなとお話を聞いていて思いました。創作をするのであれば、そもそもどんぐりが、わざわざ拾ってきたものではなく、もうあってもいいのかなと。あと、年齢も発達段階もあって、今日のミックスジュースも、あれはあの過程が面白くて、「じゃあ、これはなんだったの？」とお家の人に伝えた時に帰りにはもう忘れてるかもしれません。ぐちゃっとしたものを親御さんが持って行って、「これはなんなの？」と思うかもしれないけれども、**子どもには自分の中でストーリーやドラマがあります**。自然遊びはその時その時のものを大事にしているのかなという気がします。

スタッフ①:

素敵なリースを飾れるようなものを作りたいのであれば、それこそ、どんぐり、松ぼっくり、

なんとかの実みみたいなものを覚えて。

スタッフ②:素材としてですね。

スタッフ①:そうそう。

スタッフ②:

保育の自然や環境などの領域だと、そうすると、自然物を使って何かということがすごく昔からあるような気がするんですけど、遠藤先生、いかがですか？

遠藤先生:

そうですね。これは、先生と同じように不思議だなと思っている先生が結構いらっしゃると思うんですよ。短大でも、幼稚園の先生をやっていて、今短大の先生をやっている先生たちは、どんぐりが山ほどあるところにお休みの日などに行ったら拾っておくと言うんですよ。そうなんです、その拾っておいたものを保育の環境の中に出す時に、私は全然、「先生が拾ってきたんだよ」という出し方でいいと思っています。「先生が日曜日になんとかかんとかってとこに行ったら、このどんぐりがたくさん落ちてて拾ってきたんだよ」と。「何のどんぐりなのかなって思ったから調べてみたら、こういう木のどんぐりだったんだよ」という感じを出しておく、意外と子どもたちはすごく覚えていて、違うところに遊びに行った時に同じどんぐりが落ちていて、「これは先生が持ってきたあれと一緒にかもしれない」と言って、持ってきて見比べてなど、そんな繋がりでもいいような気がします。たぶん、その先生方の「季節が来たらどんぐりを拾わねば」みたいなことキープしながらも、出し方を変えていくいろいろなことが繋がっていくように思いました。

撒いているということを知って、すごいですよね。だって、結構あちこちにどんぐりがあったので、相当拾ってきてくれているということですね。どんぐりというものを、日頃の保育の中で、平らな図鑑とかタブレットに映ってくるいろんな情報として知るということも今は結構できるわけなんです、やっぱりモノとして、触れるものとして、こういう手触りなんだとか。あと、うちの学生もそうですけど、どんぐりをできるだけ拾ってきた状態のままで長持ちさせたいという欲求があるんですよ。「じゃあ、いろいろやってみなよ」と焚き付けて、茹でたりなど。でも、やっぱり生きてるので、生きてるからあのつやつやなんだよと。どうしても時が経ったら色褪せていくし、カサカサしてくるし、虫が出てくるわけで、それも含めて見せていくみたいな感じもありだと私は思っています。と言いながらも、いつまでも元気なものもありますよね。1年経っても机の引き出しの中で「この人元気だな」みたいなどんぐりは不思議ですよ。

スタッフ①:ひっくるめて自然です。

遠藤先生:そう、全部ひっくるめて自然なんだと思います。

園長先生:遊木の森に行けばいいんですよ。どんぐりはいっぱいあるんじゃないですか？

スタッフ①:ここのところは不作です。あんまり今年は落ちていないです。

園長先生:そうなんですか。

スタッフ①:3年ぐらいの波があって不作なんですよ。

遠藤先生:なる年とならない年があるんですよ。

スタッフ①:

種類によっても。遊木の森はコナラという樹種なんですけど、コナラはパキッと割れやすいんですよ。

園長先生:ああ、そうなんですか。

スタッフ①:

はい。マテバシイってその辺の街路樹や公園にあるものは大きくて、割と細工しやすかったりするんですけど。

副園長先生:

登呂遺跡の博物館の横にすごく大きいあるじゃないですか。去年、あそこに年長児を連れて行って遊ばせた時に、風がピューッと吹いて、風が吹くとパラパラパラッと落ちるじゃないですか。その時にコツコツコツコツっていう音がする。その音に子供たちは「落ちてきた！」とキャーキャー言いました。でも、その音や風という体験はすごく代えがたいです。実は私も生まれて初めてで、風が吹いてどんぐりが落ちて、どんぐりが落ちる音を聞いたことがなくて、すごく感動したんです。そういうのがいいなと思います。どんぐり拾いするならこういう感じともちょっと思いました。

スタッフ①:

ぜひ。どんぐりにもいろんな種類があります。どんぐりだけじゃない木の実もあります。小学校の生活科などでも、たいてい「どんぐり、松ぼっくりありますか」と親や先生が来ます。

「いや、あるけどそれだけじゃないよ」と思いながら。いろんなものに目を向けてもらえると嬉しいなと思いますね。

そこに行って拾う、そこにあるものを見つけるという体験はすごく大事な体験です。それこそクラフトという別の活動として捉えていくのもいいかな、と。

副園長先生：

どんぐりの木というのも、子どもにこれはどんぐりの木と教えた方が面白いですよ。教えるというか…。

スタッフ①：教えるというより…。

遠藤先生：

どんぐりが落ちていたら、やっぱり上を見てお母さんの実だなと思うから、どれの子どもかなと思うと思うんですよ。

スタッフ①：だから、どんぐりの木がないのにどんぐりが落ちているとすごくもやもや…。

副園長先生：やっぱり思いました？

遠藤先生：

畑で。山の方から来るのかなと思って、ネズミなどが取って持ってくるのかなと思ったりもしたんですよ。

副園長先生：あ、やっぱり思っていたんですね。

遠藤先生：

でも、見える範囲にはないので「あ」と思ったんですよ。畑なので、植えるのもいいんじゃないですかね。

スタッフ①：

それこそポット苗を作って、自分たちで記念樹みたいにしてやるのもいいかもしれないですね。

副園長先生：大木になるのでしょうか。

遠藤先生：

ものによってはそのうち。そのどんぐりの人生がちゃんと大きくなるのだったら、育っているんじゃないですか。

副園長先生:楽しいですね。

遠藤先生:結構時間がかかるとは思います。

副園長先生:木は何を…?

遠藤先生:何でも。どんぐりを片っ端から全部撒いてみたら。

スタッフ①:そうですね、

副園長先生:拾ってきたどんぐりを植えておくのですか?

スタッフ①:そうです。鉢のポットとは、鉢に芽を出してちょっと大きくして、それを移植します。

副園長先生:たとえばその年のクラスでどんぐりを、いいかもしれません。

園長先生:先が長いですよ(笑)

副園長先生:

でも、もし子どもが覚えていたら、「園長さんね、卒園するときにクラスで1つこ植えたよ」と、20年後に来た時に大きくなっているとか。

スタッフ①:自分の子どもを春日保育園さんに入れて、そのどんぐりを拾うなんて、ロマンですね。

副園長先生:いいかもしれません。

脱線してすみません…

スタッフ①:いえ、これは結構大事なところというか…。

遠藤先生:

本当に大事なところだと思います。子どもにとってはあるものだというのは大事です。園庭にどんぐりの木が生えたらあるものが増えるわけですから、面白い素材が1個増えます。

副園長先生:なるほど、確かにそうですね。

スタッフ①:ありがとうございます。

遠藤先生:

どうもありがとうございました。

2歳児さんは結構面白いなと思っています。園によって2歳の人は全然育ちが違うんですね。保育園の2歳児さんは、幼稚園の満3歳児で入ってくる子たちと比べるともううんと大人です。どの辺が大人なのかというと、やっぱりお友達同士のやり取りがすごく盛んにできる感じがありました。今日ははと組さんを見ていましたが、同じものを2人で持った時に、一緒に持ってられるのが素敵だなと思いました。芋のツルを引っ張り出す遊びをしていて、2人や3人で引っ張ってみて、それで抜けました。引っ張っている時はみんなで力を合わせる理由がありますが、抜けてしまって1つのツルができた時にどうするのかなと思っていたら、意外と2人で持ってずっと遊びが続いていました。ホースだと言っていた人たちも2人で持って、そういうところがすごくいいなと思いました。なので、やっぱりお友達が見えている感じがあります。だから、魅力的な遊びを始めた人がいると、その人からすごく伝播していく感じがあって、それは大事だなと思います。そうなった時に、室内の環境だと、その環境の中にあるものが限られるわけです。野外だと、同じようにそこにあるものしかないのですが、あり方がさまざまです。今日もいろんな大きさの穴が開いているさまざまな葉っぱがあることで、ピッタリのどんぐりが絶妙でしたよね。

スタッフ②:絶妙でしたね。

遠藤先生:

どんぐりが「わ、ピッタリだ」と思いきや、小さな穴がレースみたいに開いているやつは、もうそこにしか通らないような細い茎のものがいっぱい差し込まれていました。そういう遊びが生まれて面白いなと思って見ていました。それも、1つの葉っぱにみんながいろんなものを持って来るからそういう風になったのであって、そういうことが自然にできるのがとても大事なところですよ。やっぱり0歳からの積み重ねの部分があるんじゃないかなと思って見ておりました。

園長先生にはお話しましたが、ピッタリのものにはめたい時期があるじゃないですか。たとえばうちの学生に、1歳、2歳の子たちの室内環境であると面白いと思うものを発想してもらおうと、大体、箱に丸や三角や星の穴が開いて、それと同じ形のものを入れて落とす遊びをやらせたいという話が出てきます。それを作るのがいいのですが、もうそれしかハマりません。だけど、自然の中のものはいろんなものがハマったりして面白いなと思います。通り

抜けて落ちたり、あるいは引っかかって落ちなかったりという経験や気づきに繋がるのかなと、面白いなと思っていました。

あと、今日の流れの中に、いろいろ覗く、見立てる、丸める、パラパラするとあるんですが、子どもたちがすることというか、五感で感じることもすることの仲間に入っています。けれど、たぶん 2 歳ぐらいの人はものすごく体を動かして、まずは体を動かすところから始まるので、こういうところをキーワードに注目していきます。こういうところから五感でよく感じ取ることによってどう繋がっていているのかというふうに、1つ見方を示します。うちの学生などもそうですが、自然の中で遊ぶ時にどこに着目していいかわからない。こういう大事な動きが出ているのに、危ないかもしれないと思ってやめさせるのはもったいないです。でも、今日の自分の反省は、この転がすのところで、小さい石を斜面から転がるのを見つけた子がいて、最初は自然に転がるのを発見したんですが、次に自分の力で小さい石を転がしてみることになって、だんだん自分の力が確認できて、相当大きい石を落としたり、「うわ、落石」という反省もありました。でも、やっぱり動いて試して、そこでいろいろ感じ取ってということを見ていくと、1歳、2歳の子はことさらそういうところが大事なのでしょうか。ミックスジュースを振り回していましたね。ツルも回して、そこからそのリズムが感じられて、わらべ歌を歌っていた子もいたような気がして、そういうところも面白いです。

スタッフ①:

そうなんですね。体を動かすところから、五感に繋がってくというふうに。去年も遊びが伝播するところはずごく感じましたね。そこはやっぱり 0 歳児からの積み重ねというところですね。先生方にもきっと今日の遊びで何かヒントが芽生えたのかなって。ヒントで何か芽生えていたら嬉しいなと思います。今日はありがとうございました。

一同:ありがとうございました。